

《9月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【特集】

- ▷鳥取市総合防災訓練
- ▷ガイナール〜1万人でゴール〜
- ▷山陰海岸ジオパーク
- ▷市民美術展作品紹介（日本画）



昨年の「鳥取市総合防災訓練」

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週日・月・水・木



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばぴよんぴよんネット  
自主制作番組

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

鳥取特産の二十世紀梨や千両ナスの収穫の話題や、地域の農産物加工所を紹介します。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

芸術・文化の秋、市内各地の伝統芸能を守る公民館活動やまちづくり活動を紹介しします。

生活情報番組『ぴよんぴよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介しします。

地デジの準備をお願いします！

アナログ放送は平成23年7月24日に終了し、地上デジタル放送に完全移行します。そのままではアナログテレビは何も映らなくなります。詳しくは、ご加入のケーブルテレビ局にお問い合わせください。

情報をお寄せください！

いなばぴよんぴよんネット ☎ 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。番組の放送時間は、ホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください。  
http://www.inabapyonpyon.net



偶然、看護師さんもいて、救命処置がされましたが、もしもあの時、自分が救命講習を受けていたら、「何かできたのでは」と考えたそうです。そして、早速、救命講習を受講したことが、今日の活動のきっかけとなりました。自分には何かあった時、助けてくれるのは、最も身近にいる家族。だから、

まずは、家族から、友人、知人、そして地域へと、「救命講習の輪を広げたい」と、西村さんは熱く語ります。

**知名度向上が目下の課題**

7月29日〜30日に奈良県奈良市で「第16回全国女性消防団員活性化奈良大会」がありました。平城遷都1300年祭と併せ盛り上がる会場には、全国から432の分団と団員約2500人が参加。2日間にあわたり、活動紹介や団員相互の交流が行われました。現在、全国で活動する女性消防団員は約18000人。

毎年10000人以上が新たに入団しているそうです。

鳥取市消防団女性分団は定員15人。現在、団員募集はしていませんが、新たな女性消防団の仲間が増えることには期待をしています。

現在、鳥取市消防団女性分団では、愛称の募集を検討しています。女性分団は、歴史も浅く、まだまだ知名度が低いので、知名度向上が目下の課題。誰からも愛されるようなかわいい名前により、みなさんの身近な存在になりたいとのこと。

**職場や家庭の理解と協力を**

「つらい活動は長続きしない。チームワーク抜群の団員の思いは一つですから、楽しみながら活動をずっと続けたいですね」「まずは職場や家庭の理解と協力をお願いします！」と、西村さんは、常に母親役として、団員の活動に気を配ります。

団員個々のパワーに2人の愛情が注がれ、女性ならではの発想を活かした、まさに元気な消防団が花開くのは、そう遠くない未来のことのように思いました。

**女性分団をご存じですか**

鳥取市消防団女性分団は、平成20年の結成以来、女性の視点、女性でなければできない活動を生かし、「防災・消火」というこれまでのニーズから「予防」に重点を置いた活動を展開しています。

団員は現在15名。20代〜50代で構成されています。全員が普段の勤務の傍ら、仕事を終えて集合する訓練には余念がありません。

分団長の西村さんは、もともと地域の女性会などで活動

していましたが、「お年寄りや子どもにふれあう機会は男性より女性の方が多いため、いざという時は、女性の方が頼りになる」と。また、「地域のためにがんばりたい」という思いから一念発起し、鳥取市のサポートを受け、女性だけの分団を結成しました。

副分団長の安達さんは、以前は、夫の消防団活動を家庭で支える側にいましたが、女性分団員募集の記事をみて応募。ちょうど子育てから手が離れ、時間に余裕ができたこと、自分に何かできることが

ないか考えていたころでしたので、「自分のためにも」と思い入団を決意しました。

**消防団活動は自分のため**

安達さんにとって活動を始めてよかったことは、実際に老人が倒れている現場に遭遇し、これまでなら、何もできないまま尻込みするだけの自分が、「大丈夫ですか？」と、声をかけることができたこと。救急隊員に引き継ぎましたが、幸いなことに、大事には至らず、自分の行動に勇気が湧き、消防団活動は、市民のため

もあり、自分のためでもあるとあらためて実感しました。

そして、そんな安達さんの姿を見ていた娘さんが、昨年、女性分団に入団し、今では、お茶の間の話題にも消防団の活動が登場するほどに。そんな時はきまってる、「わが子ながら、よくがんばっている！」と思わず顔がほころびます。

**救命講習の輪を広げたい**

一方、西村さんは、消防団に入る前、卓球大会で友人が突然倒れ意識不明になった際に、会場にはAEDがあり、

シリーズ **元気です**

女性ならではの発想で  
まさに元気な消防団を！

「鳥取市消防団女性分団」



分団長

西村 登志子 さん  
Toshiko Nishimura

副分団長

安達 典子 さん  
Noriko Adachi



幼稚園で行った「防火教室」